

“Future”サービス

勝つ特許解析オンラインサービス



by アナリスリサーチ株式会社

“Future”サービスの説明書

V1.0（更新日;2023.08.09）

目次

【サービス概要】.....	2
【課題】.....	2
【解決】.....	3
1. 繰り返しのミーティング.....	3
2. Quick 解析.....	3
3. メニューから選ぶ.....	3
【サポート内容】.....	4
【料金】.....	4
自動車業界の方の利用(例).....	5
【補足】.....	6
1. 「企業 Quick 解析」サンプル.....	7
2. 「ニーズ Quick 解析」サンプル.....	8
3. 「実現手段 Quick 解析」サンプル.....	9
4. 「コア Quick 解析」サンプル.....	10
5. 「組織力 Quick 解析」サンプル.....	11
6. 「ベンチマーク」Quick 解析サンプル.....	12
7. 「レポート Quick 解析」の概要.....	13
最後に.....	14

————— 問い合わせ先 —————
アナリスリサーチ株式会社
〒102-0074
東京都千代田区九段南一丁目5番6号
松井紳造
sales@pat-analysis.com



【サービス概要】

Future は、調査、整理、報告からなる特許解析サポートをオンラインミーティングで行うサービスです。世界中の企業が開発する CASE 技術において、新ビジネス・新技術が誕生する動向やライバル企業の技術などについて、お客様のリクエストに沿って、作戦に役立つ情報を調べてご報告します。

【仕組み】

調べたいことを適切に調べるために、「繰り返しのミーティング」「10日間での特許解析」「選択できる 7 種類の Quick 解析」の3つからなる仕組みで運営します。



この後、詳しく説明します。

【課題】

特許解析が失敗するジレンマについて説明します。

【ジレンマ】

〈解説〉

INPUT が曖昧な特許解析は、的確な結果を出せません。そもそも INPUT は、お客様のリクエストです。とはいえ、お客様は、事前に調べたいことが分かる筈もなく、具体的にリクエストできなくて当然です。そのまま、特許解析を実施してしまうと失敗してしまいます。

〈例えば〉

「中国企業が開発する EV 技術を調べたい」では特許解析がしにくい。「中国 BYD の EV 熱管理システムのコア技術を調べたい」のように具体化すれば、特許解析が格段に簡単になります。



【解決】

ジレンマを解消して、作戦に役立つ情報を調べてご報告できるようにします。図で示す「ここを調べたい」をお客様から引き出して、具体化した「ここ」の特許解析を実施する仕組みを採用しました。詳しく説明して参ります。

1. 繰り返しのミーティング

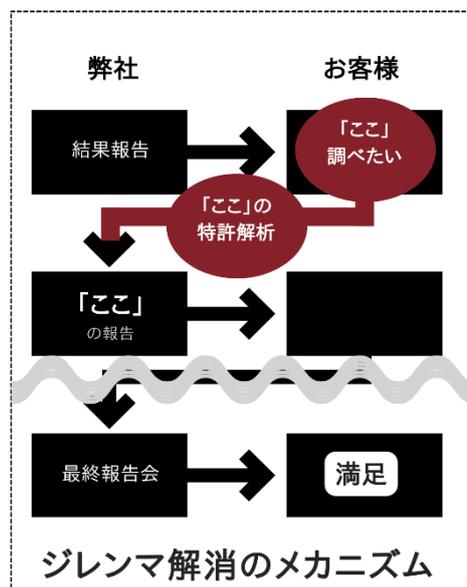
特許解析の結果をご報告することによって、「ここを調べたい」を引き出す場がミーティングです。それを繰り返す行うことによって、「ここ」を段階的に具体化します。

2. Quick 解析

10日で結果を出す Quick 解析を7種類ご用意しました。作戦を練るための情報を調べるために10日間隔で異なるタイプの特許解析を連鎖する所謂深掘りができます。

3. メニューから選ぶ

「こんな報告をしてほしい」でお客様が選べる7種類にして、お客様が選び易くしています。また、弊社が行う特許解析は、INPUT が具体化するのので、ジレンマなく実施できるようになります。



〈Quick 解析 7 種類〉 お客様がアウトプットで選べる

※ アンダーラインが各 Quick 解析の INPUT 情報

No	呼称	お客様指定 解析対象	アウトプット
1	企業 Quick 解析	技術	<u>解析対象</u> を開発する企業を特定した結果をご報告
2	ニーズ Quick 解析	企業	<u>解析対象</u> が開発するビジネス、アプリケーション、ユーザー利用シーンなどのニーズを把握した結果をご報告
3	実現手段 Quick 解析	企業	<u>解析対象</u> が開発する実現手段を把握した結果をご報告
4	コア Quick 解析	企業	<u>解析対象</u> が開発するコア技術を把握した結果をご報告
5	組織力 Quick 解析	企業と技術	<u>解析対象</u> の発明者リソース数など組織力の見える化結果をご報告
6	ベンチマーク Quick 解析	複数企業と 複数技術	<u>解析対象</u> のマトリクス表を作成して、各社の差が比較できるようにした表を整理してご報告
7	レポート Quick 解析	—	<u>実施済みの Quick 解析の結果</u> を使い、それらを戦略視点でまとめたパワーポイント資料を作成して、ご報告

尚、お客様は、この Quick 解析の内容を必ずしも理解しておく必要はございません。ミーティングの際に適宜ご説明しますので、ご安心ください。

【サポート内容】

調査	; 世界 170 各国のデータベースを調べます。
オンラインツール	; 通常は ZOOM ※ お客様ツールでも対応可能
ミーティング	; 原則、1 時間。
最終報告会	; 90分 内訳; 報告60分+質疑30分
資料提供	; 各ミーティングで説明した資料(ラフな資料です)は、打ち合わせ後にメール送付。
ミーティング記録	; 議事メモの共有(当日のご意見や次回までの実施事項を記載)
特許リストの提供	; 対応できます。ただし、分量が多い場合、ミーティング回数を使うことがあります。

【料金】

料金	; ミーティング回数 × ミーティング基本料金
ミーティング基本料金	; ¥150,000 円(税込) / 回
お申込ミーティング回数	; 1 回 ~ (標準は 9 回)
途中キャンセル	; 可

※ 請求金額は、ミーティング基本料金×実施済み回数分(見積金額が上限)

【お申込に際して】

本サービスの契約形態は、基本、依頼書・仕様書が必要な「業務請負契約」ではなく、「ミーティングの実施」をもって納品扱いとすることを規定した弊社指定の「サービス利用申込書」に同意を頂くだけで、簡単にお申込ができる売買契約です。尚、本サービスをカスタマイズしたい場合には、業務請負契約になり、依頼書・仕様書や契約書案文のご準備をする必要があります。予めご了承ください。

〈お申込手続き〉

1. ミーティング回数を決めて「見積して欲しい」とお申し付けください。
2. 弊社が、見積書とお申込書と「サービス利用申込書」を送付します。
3. 「サービス利用申込書」に記名と捺印をして、弊社宛にお送りください。
4. これでお申込が完了します。

自動車業界の方の利用(例)

自動車業界の方におススメする本サービスの利用(例)をご紹介します。

1. 新ビジネスの動向調査

- ・ 新ビジネスが誕生する動向を調べる 例。物流輸送管理などのソリューションサービス開発
- ・ 新技術が誕生する動向を調べる 例。ソニーの「音の ADAS」などの機能開発

2. 技術開発におけるライバル対抗策

自社で開発する技術と競合する企業を調べ、対抗策を検討するための情報収集に利用する

- ・ 同じ技術を開発している企業の存在を把握する
- ・ 各社の技術が解決する顧客ニーズを把握する
- ・ 実現手段を把握して、ノウハウを学ぶ
- ・ コア特許を把握して回避の検討をする
- ・ 差別化などコア技術を把握して、対抗できるアイデアを創出する

3. 自動車部品会社様の利用例

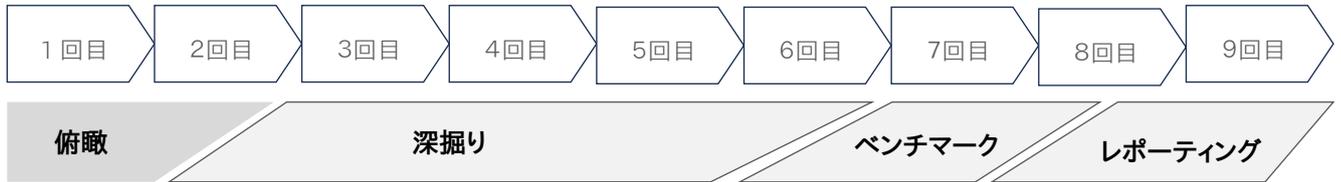
- ・ ライバル企業(自動車部品メーカーの同業者)がどのような開発をしているのかを調べる
- ・ B2B の顧客(車両メーカー)の開発内容を調べて、自社開発すべき技術を企画する

【補足】

ミーティングスケジュール

「俯瞰」→「深掘り」→「比較」→「まとめ」の順に行うことで、お客様の調べたいことを見える化します。

〈ミーティング 9 回の例〉



【詳細】

Step	「Quick解析」の選択	見える化する全体像
1. 俯瞰	1. 企業Quick解析	
	お客様の選択	
2. 深掘り	2. ニーズQuick解析	
	3. 実現手段Quick解析	
	4. コアQuick解析	
	5. 組織力Quick解析	
3. 比較	6. ベンチマークQuick解析	
4. まとめ	7. レポートQuick解析	

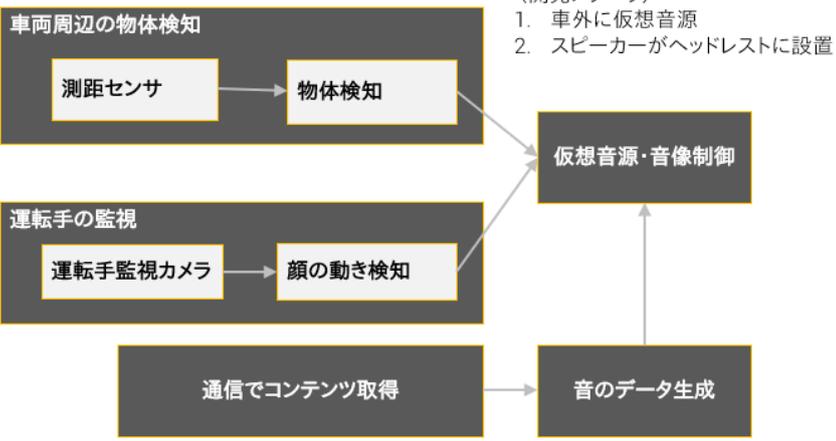
1. 「企業 Quick 解析」サンプル

<p>タスク</p>	<p>指定技術を開発する 企業を特定した結果をご報告</p> <p>※ 下線は、お客様が指定する INPUT 情報</p>
<p>概念図</p>	<pre> graph LR A[指定技術] -- INPUT --> B[企業 Quick 解析] B -- OUTPUT --> C[開発企業] </pre>
<p>報告内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 開発企業のリスト 特許出願を最近実施している企業を抽出している企業の中で、特に、出願数や発明者数等が組織的な規模にある企業を特定し報告。 今後の深掘り解析の要否判断をいただくための情報として以下を説明します。 候補企業についての特許サンプルを提示し、技術内容を具体的に理解いただきます。 <p>〈例〉 EV 熱管理の開発企業をご報告する際の資料の一部抜粋</p> <div data-bbox="247 1176 1417 1877"> <p>「EV熱管理」開発企業リスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 韓国 現代自動車 (with KIA) 中国 BYD 中国 GEELY フランス VALEO 中国 第一汽車 米国 FORD 中国 長城汽車 韓国 HANON S 中国 CATL 中国 長安汽車 他多数 <p>韓国現代自動車 開発する「EV熱管理」の特許サンプル</p> <p>【サンプル特許】 ここでは、韓国現代自動車がEV熱管理技術を開発している事実確認をする際に把握したサンプル特許を紹介します。</p> <p>〈サンプル特許の開発目的について〉 右欄で示すサンプルは、熱管理システムのコストダウンなどのために、モジュール化する技術を開発していることを示唆するものです。</p> <p>〈次のおススメ〉 ここで紹介したのは418件中の1件です。その他の手段を調べたいならば、「手戻Quick解析」がおススメです。</p> <p>公開公報番号: CN116262422A (2023.06.16) 出願番号 : KR1020210179799 (2021.12.15)</p> <p>【名称(翻訳)】 注入式熱交換モジュール及び該モジュールを応用する中間の熱管理システム</p> <p>【要約文(翻訳)】 注入式熱交換モジュール及び該モジュールを応用する中間の熱管理システムであって、該注入式熱交換モジュールは以下を含む:外部凝縮器又は室内凝縮器に接続される上室と、蒸発器及び圧縮機に接続される下室とを有する外タンクと;上記内タンクは、上記外タンク内の冷媒と熱交換可能に設けられており、上記圧縮機、蒸発器又は外装置の下部に接続されている;第1バルブは、内タンクの上端に設けられている;第2バルブは、内タンクの下端に回転可能に連結されている;そして、第1弁と第2弁が同時に回転するように、第1弁と第2弁とが接続されている。第1弁および第2弁は、回転することにより冷媒の流れを許容し、冷媒を膨張させたり、冷媒の流れを阻止したりするように構成されている。</p> </div>	

2. 「ニーズ Quick 解析」サンプル

タスク	指定企業 が開発する ビジネス、アプリケーション、ユーザー利用シーンなどのニーズを把握した結果をご報告 ※ 下線は、お客様が指定する INPUT 情報
概念図	<div style="text-align: center;"> <pre> graph LR A[指定企業] -- INPUT --> B[ニーズ Quick 解析] B --> C[OUTPUT ビジネス、アプリケーション、ユーザー利用シーン] </pre> </div>
報告内容 <ol style="list-style-type: none"> 指定企業のニーズ内容 当該企業が最近開発しているビジネス、アプリケーション、ユーザー利用シーンなどのニーズ情報をご報告します。特に、最近の特許出願の中で開発しているニーズを中心にご報告。 今後の深掘り解析の要否判断をいただくための情報として以下を説明します。 候補となるニーズ内容に関わる特許サンプルを提示し、具体的な技術内容を理解いただきます。 <p>〈例〉 SONY の ADAS におけるニーズのご報告のケース</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="247 1205 906 1668" style="width: 45%;"> <p>SONYが開発するADAS 「2. ニーズ把握」結果</p> <p>ADAS開発の SONYの主なニーズ3つ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運転者がEVの走行状態を認識しやすくなるための疑似モータ音の発生の不快感の改善技術@WO2023127510A1 2. 歩行者に対して車両の接近を知らせる@WO2023068116A1 3. 走行上の障害物の存在を運転手に直に知らせる@WO2022145286A1 </div> <div data-bbox="592 1518 1406 1966" style="width: 45%;"> <p>特許サンプル</p> <p>仮想音源の位置(方向)と音像の大きさを制御するアラートSound機能開発。 「音のADAS」「音響AR」と呼べる機能を開発中。</p> <p>開発を進めているのは、Sony。</p> <p>右欄は、黄色いクルマのアラートSound機能において、赤い車(危険)が左後方から近寄る音がし、音像が大きくなっていくアラートを出す。高度な技術の開発。</p> <p>SONYの2, 3年後に販売するEVに搭載される可能性がある。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>WO2021079975A1 SONY</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>WO2022185725A1 SONY</p> </div> </div> </div> </div>	

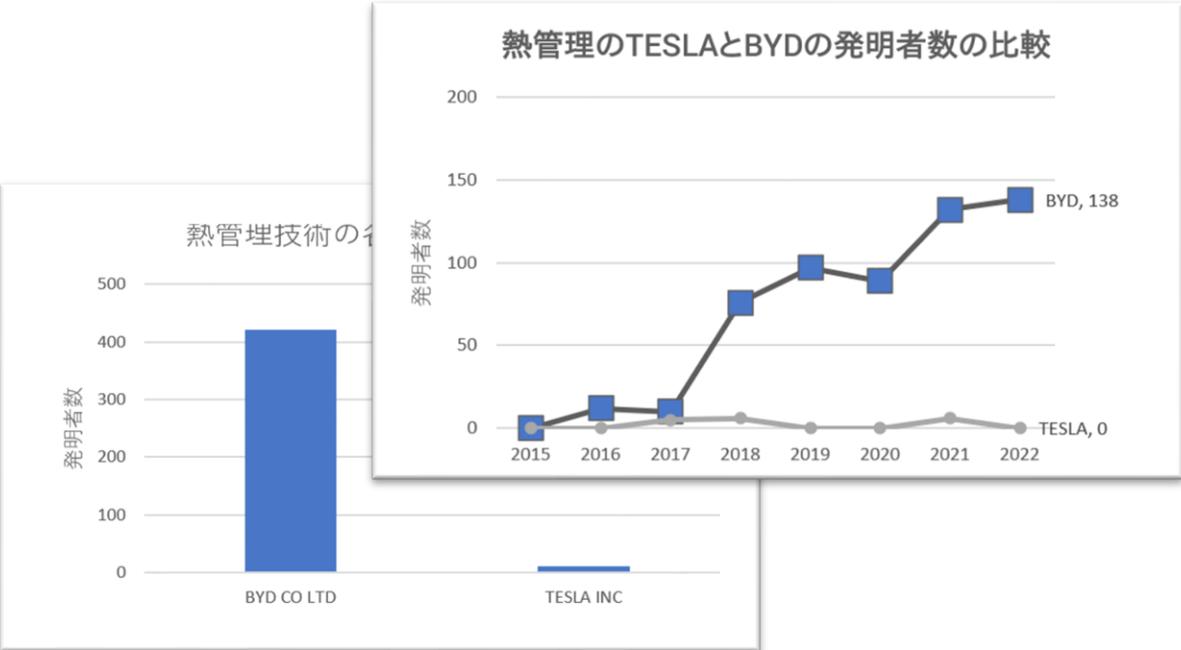
3. 「実現手段 Quick 解析」サンプル

タスク	<p>指定企業が開発する 実現手段を把握した結果をご報告</p> <p>※ 下線は、お客様が指定する INPUT 情報</p>
概念図	 <pre> graph LR A[指定企業] -- INPUT --> B[実現手段 Quick 解析] B -- OUTPUT --> C[具体的な技術内容] </pre>
<p>報告内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 指定企業が開発する実現手段を把握した結果をご報告 主に、当該企業の最近の特許出願が出されている技術の実現手段について、例えば、ブロック図などを作成して説明するなど、具体的に理解いただけるようにして説明します。 特許リストのご提供（事前相談が必要） 今後の深掘り解析の要否判断をいただくための情報として以下を説明します。 候補となる実現手段についての特許サンプルを提示し、そこからさらに具体的に理解いただきます。 <p>〈例〉 SONY の「音の ADAS」技術の実現手段についてご報告例</p> <div data-bbox="261 1272 1184 1841" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>SONY の「音の ADAS」ブロック図</p>  <p>〈開発ノウハウ〉 1. 車外に仮想音源 2. スピーカーがヘッドレストに設置</p> </div> <p>WO2022145286A1 (出願日2021.01.04)</p>	

4. 「コア Quick 解析」サンプル

タスク	<p>指定企業が開発する コア技術を把握した結果をご報告</p> <p>※ 下線は、お客様が指定する INPUT 情報</p>
概念図	 <pre> graph LR A[指定企業] -- INPUT --> B[コア Quick 解析] B --> C[OUTPUT 商品差別化に関する技術内容] </pre>
報告内容 <ol style="list-style-type: none"> 指定企業が開発するコア技術の内容を把握した結果をご報告 主に、最近の特許出願が出されている技術の中から、「出願数が集中している技術」「商品差別化に関わる技術」「性能や価格に寄与するなどの特徴的な技術」についてご紹介します。 コア技術の特許母集団の中のコア特許(候補)のご提供(事前相談が必要) 今後の深掘り解析の要否判断をいただくための情報として以下を説明します。 ご紹介する技術が、当該企業のコア技術であることを弊社が判断した理由などを解説します。 特に、特許サンプルを提示し、より具体的に技術内容を理解していただきます。 <p>〈例〉 SONY の ADAS 技術について調べた結果、音の ADAS を発見しご報告したケース</p> <div data-bbox="268 1263 1321 1839" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>特許サンプル</p> <p>仮想音源の位置(方向)と音像の大きさを制御するアラートSound機能開発。 「音のADAS」「音響AR」と呼べる機能を開発中。</p> <p>開発を進めているのは、Sony。</p> <p>右欄は、黄色いクルマのアラートSound機能において、赤い車(危険)が左後方から近寄る音がし、音像が大きくなっていくアラートを出す。高度な技術の開発。</p> <p>SONYの2、3年後に販売するEVに搭載される可能性がある。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">     <p>WO2021079975A1 SONY</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>WO2022185725A1 SONY</p> </div> </div> </div>	

5. 「組織力 Quick 解析」サンプル

タスク	<p>指定企業×指定技術の発明者リソース数など組織力の評価結果をご報告</p> <p>※ 下線は、お客様が指定する INPUT 情報</p>																											
概念図	 <pre> graph LR A[指定技術 × 指定企業] -- INPUT --> B[組織力 Quick 解析] B -- OUTPUT --> C[発明者リソース数] </pre>																											
報告内容 <ol style="list-style-type: none"> 解析対象の発明者リソース数など組織力の評価結果をご報告 主に、最近 1 年(2021年)の特許出願母集団に関わる発明者リソース数や過去からの推移をグラフ化するなどして評価した結果をご報告します。 今後の深掘り解析の要否判断をいただくための情報として以下を説明します。 組織力が高い場合などは、必要に応じて、技術を分解し直すなどして解説します。組織力がまだ低い場合でも、差別化性の高い技術などの場合は、具体的な特許サンプルを提示し、最近開発している具体的な技術内容を理解していただけるようにします。 <p>〈例〉 EV 熱管理技術に関する TESLA 社と BYD 社の発明者リソース数をグラフにして示した例。 リソースの違いを理解していただけるように説明をします。</p> <div data-bbox="247 1339 1428 1989">  <p>熱管理のTESLAとBYDの発明者数の比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>BYD (発明者数)</th> <th>TESLA (発明者数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2016</td> <td>15</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>15</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2018</td> <td>75</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>100</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>90</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td>130</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2022</td> <td>138</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> </div>		年	BYD (発明者数)	TESLA (発明者数)	2015	0	0	2016	15	0	2017	15	0	2018	75	0	2019	100	0	2020	90	0	2021	130	0	2022	138	0
年	BYD (発明者数)	TESLA (発明者数)																										
2015	0	0																										
2016	15	0																										
2017	15	0																										
2018	75	0																										
2019	100	0																										
2020	90	0																										
2021	130	0																										
2022	138	0																										

6. 「ベンチマーク」Quick 解析サンプル

<p>タスク</p>	<p><u>指定企業(複数)×指定技術(複数)</u>のマトリクス表を作成して、各社の差が比較できるようにした表を整理してご報告</p> <p>※ 下線は、お客様が指定する INPUT 情報</p>																																																											
<p>概念図</p>	<pre> graph LR A[指定技術 × 指定企業] -- INPUT --> B[ベンチマーク Quick 解析] B -- OUTPUT --> C[発明者リソース数、国別出願比率、技術内容等] </pre>																																																											
<p>OUTPUT</p>	<p>報告内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 企業と技術を各指定対象のマトリクス表をご報告 主に、最近 3 年の特許出願母集団において、発明者リソース数や出願数を企業比較できるようにします。また、技術把握した内容をマトリクス表に付け加えるなど、ご要望に応える検討をした結果をご報告します。 今後の深掘り解析の要否判断をいただくための情報として以下を説明します。 完成したマトリクス表について、特徴的な状況を把握して説明します。 <p>〈例〉 自動車メーカー別の「ADAS」技術のタイプ別にマトリクス表 高度な ADAS 技術は、AI 技術によるもので、組織的にどの程度リソースをかけて開発できているのかなどの特許数や発明者数などで把握した上で、まとめた表です。</p> <table border="1" data-bbox="518 1406 1098 1691"> <thead> <tr> <th></th> <th>簡単な ADAS</th> <th>高度な ADAS</th> <th>通信での (決済サ-</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>トヨタ</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr> <tr><td>ホンダ</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr> <tr><td>日産</td><td>●</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>Renault</td><td>●</td><td>△</td><td>△</td></tr> <tr><td>マツダ</td><td>●</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>FORD</td><td>●</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>GM</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr> <tr><td>BENZ</td><td>●</td><td>△</td><td>△</td></tr> <tr><td>AUDI</td><td>●</td><td>△</td><td>△</td></tr> <tr><td>VW</td><td>●</td><td>△</td><td>△</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="518 1697 1332 1904"> <thead> <tr> <th>開発指標</th> <th>特許数 ※</th> <th>基準設定の理由・イメージ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●</td> <td>100件~ </td> <td>「本部」レベルの組織的な開発レベル</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>20件~</td> <td>「部」レベルの組織的な開発レベル</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>1~19件</td> <td>「課」レベルの組織的な開発レベル</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>0件</td> <td>開発していないレベル</td> </tr> </tbody> </table>		簡単な ADAS	高度な ADAS	通信での (決済サ-	トヨタ	●	●	●	ホンダ	●	●	●	日産	●	○	○	Renault	●	△	△	マツダ	●	○	○	FORD	●	○	○	GM	●	●	●	BENZ	●	△	△	AUDI	●	△	△	VW	●	△	△	開発指標	特許数 ※	基準設定の理由・イメージ	●	100件~	「本部」レベルの組織的な開発レベル	○	20件~	「部」レベルの組織的な開発レベル	△	1~19件	「課」レベルの組織的な開発レベル	×	0件	開発していないレベル
	簡単な ADAS	高度な ADAS	通信での (決済サ-																																																									
トヨタ	●	●	●																																																									
ホンダ	●	●	●																																																									
日産	●	○	○																																																									
Renault	●	△	△																																																									
マツダ	●	○	○																																																									
FORD	●	○	○																																																									
GM	●	●	●																																																									
BENZ	●	△	△																																																									
AUDI	●	△	△																																																									
VW	●	△	△																																																									
開発指標	特許数 ※	基準設定の理由・イメージ																																																										
●	100件~	「本部」レベルの組織的な開発レベル																																																										
○	20件~	「部」レベルの組織的な開発レベル																																																										
△	1~19件	「課」レベルの組織的な開発レベル																																																										
×	0件	開発していないレベル																																																										

7. 「レポートニング Quick 解析」の概要

<p>タスク</p>	<p>実施済みの Quick 解析の結果を使い、それらを戦略視点でまとめたパワーポイント資料を作成して、ご報告</p> <p>※ 下線は、お客様が指定する INPUT 情報</p>
<p>概念図</p>	<p style="text-align: right;">OUTPUT</p> <pre> graph LR A[実施済み Quick 解析の結果] -- INPUT --> B[レポートニング Quick 解析] B -- OUTPUT --> C[レポート資料 報告会] </pre>
<p>報告内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>報告レポートの提供</p> <p>原則、実施済みの Quick 解析結果を束ねたレポートです。</p> <p>〈補足〉</p> <p>弊社は、特許情報の世界を調べてきた第 3 者の立場で、強み(S)、弱み(W)、脅威(T)、機会(O)の視点での弊社コメントを付け加えるさせていただいています。尚、御社の戦略アクションについてご提案するなどのコメントをする考えはございません。</p> <p>報告会の開催</p> <p>Quick 解析結果を束ねてまとめ上げた資料を作成して、プレゼンテーション形式で説明をします。</p> <p>〈報告会〉の(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>場所 ; オンラインミーティング形式</p> <p>参加者 ; お申込者+上司+メンバー、弊社担当者</p> <p>報告会時間 ; 90分(プレゼンテーション 60分 + 質疑応答 30分)</p> <p>プレゼンテーション資料 ; 50ページ~80ページ (程度)</p> 	

最後に

本書の説明で、Future サービスについてご理解いただけただでしょうか？

ユニークなサービスなので、分かりにくい点が多くあると思います。

不明な点があれば、オンラインミーティングで補足説明をします。

お気軽にお問い合わせください。

————— お問い合わせ先 —————
アナリスリサーチ株式会社
〒102-0074
東京都千代田区九段南一丁目5番6号
松井紳造
sales@pat-analysis.com
—————